

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホーム なごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号		
自己評価作成日	平成23年1月19日	評価結果市町村受理日	平成23年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が地域の人と共に安心して楽しく暮らせる生活環境作りを目指しています。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177400231&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>沼田町の住宅地にあり、敷地内に特別養護老人ホームなどもある1階建て1ユニットの町営のグループホームである。建物は共有空間を居室などが取り囲む配置であり、一体的で全体を見渡しやすい造りとなっている。共用空間には手作りの装飾が数多くあり、写真なども飾られ、親しみやすい雰囲気を作っている。また、個別の居室も、テレビやDVD、ポスターなど利用者の好みのもが自由に持ち込まれて賑やかである。室内の温度や湿度にも十分な配慮がなされている。サービス面では個々の利用者の生活やペースを尊重した介護が行われており、楽しみごとやおしゃれ、散歩や外出、行事や外食など、利用者の意向に沿ったきめ細かな支援が提供されている。地域との交流も活発で、町内の行事に参加するほか、隣接する高齢者施設に頻繁に訪問し、行事に参加したり交流を行っている。事業所独自でも年間行事を豊富に企画しており、利用者の楽しみの機会が数多く提供されている。また、前回の外部評価についても、なごみ通信の発行頻度や運営推進会議の開催頻度の向上、重度化した場合の対応の文書化、利用者と同じ食事の摂取などの面で改善に向けて真摯に取り組まれている。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に一度、理念について職員間で話し合いの機会を持ち、1人ひとり理念を理解し利用者のケアに反映されているか確認していますが事務所、ホール、ネームの裏に貼り個々に意識するようにしているが実践出来ていない部分もある	経営理念の中に「利用者が地域の人と共に安心して暮らせる生活環境を提供します」という文言を入れ、地域密着型としての理念を確立している。理念は職員全員で見直して作られたもので、事業所内の各所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全町的な行事である、町民芸術祭に作品を展示あいたり、夜高あんどん祭り見学や隣接している施設の行事の花火大会や夏祭りや盆踊りや収穫祭等に積極的に参加し交流を深めている。また利用者の健康維持の為に日常的に散歩や買い物等に出掛けたり、地域の方々と挨拶したり、会話をしている。またご近所のかたより野菜を頂いたり、他の施設の方の協力も頂きながら菜園を楽しみ収穫している	町内のごみ拾いに参加したり、町民芸術祭に利用者の作品を出品している。隣接する特別養護老人ホームの花火大会や収穫祭、夏祭りなどに参加し、地域の方と交流している。利用者の好みの喫茶店に出かけたり、馴染みの化粧品店で化粧品をもらったりしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスを開設し地域に貢献している		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に4回運営推進会議を開催している。単に会議形式で進めるのではなく、以前に比べて、火災訓練の様子を観ていただいたり、温泉での家族交流会の中で開催の企画したり、認知症についての勉強会を取り入れるなど毎回テーマを工夫し凝らした開催をしている。以前に比べて実践されており充実されていると思う。新たに利用者の家族全員への参加の取り組みも出来ており意見を頂きながら、なごみでの生活状況が分かりやすい様に工夫している	運営推進会議には町役場職員、地域包括支援センター、保健師、町内会長、多数の利用者家族などの参加を得て、年間活動報告や行事予定、地域交流などのテーマで意見交換しているが、回数は年4回にとどまっている。また、サービス評価の内容について会議で十分に話し合いは行われていない。	会議の開催回数について段階的に増やされているが、年6回を目指して取り組まれるよう期待するとともに、会議でサービス評価について取り上げたり、議事録を家族に送付することも期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームとしては数少ない公立の利点を生かして、積極的に町の担当者と情報交換をしたり、社会福祉協議会にも訪問し、利用者サービスの向上や関係機関との交流を深めている	事業主体が沼田町である公立のグループホームで、町の担当者といつでも情報交換ができる。また、地域包括支援センターや社会福祉協議会なども連携している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームは我が家と同じ考え、玄関に鍵を掛けない事を職員、家族、地域にも理解して頂いている。帰宅願望があったり外に行きたいという利用者には、さりげなくそばに付き添い対応している。家族には、身体拘束をしない事の説明や、万が一行為が分からなくなった時の対応をマニュアルを作成し理解いただいている。	身体拘束は行われておらず、マニュアルを整備し、身体拘束の対象となる行為などの勉強会を行っている。玄関は夜間のみ施錠であり、外出の際は付き添っている。玄関にはセンサーがあり、外出がある場合は把握できるようになっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議において、虐待についての話題に触れ、身体的な行為だけではなく、言葉使いや心理的な行為についても理解しあえる機会をもうけている。職員に研修の機会があれば、積極的に出席するように促している。運営推進会議を利用して、家族への虐待行為についての知識を学ぶ機会を設けた		

沼田町認知症高齢者グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常生活自立支援事業の研修に出席したり、職員全体会議において出席者から説明し、知識と理解を深めるように取り組んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に伴う契約はもとより、重要事項説明書についても丁寧に説明している。さらに後ほど、不明な点があれば理解いただく様に説明している。また状態の変化や施設運営等により契約の改正をする場合は、利用者、家族等に詳しく説明し、同意を得るように心懸けている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、現在の様子をお話して家族が意見等を言いやすい様に雰囲気作りをしている。また施設内に苦情を受ける外部機関を設けている。家族から寄せられた意見、要望は連絡ノートや会議で全職員に伝え改善を図っている。日頃から利用者との会話において、本人の要望や意見を聞き出す工夫を行い日々、運営に生かせる努力をしている	家族の来訪時に利用者の様子を話し、意見を引き出している。また、意見や苦情を言いやすいように外部の苦情受付機関を知らせている。家族からの意見は連絡ノートに記載し、職員間で共有してサービスの向上につなげている。一方、定期的な金銭出納報告は検討中であり、まだ実現されていない。	家族への定期的な金銭出納報告の実現を期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と介護職員は、常に利用者、家族の状況の変化を把握し、対応できる体制が出来ており、開設者へもその都度報告を受けている。また、職員全体会議を開き職員の意見や要望を広く聞く機会を設け繁栄させる努力をしている	月1回の全体会議や毎日の申し送りの中で職員の意見や要望を聞き、運営に反映している。管理者と職員の個別面談も随時行われ、職員の意見を聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁にホームを訪れ、利用者の様子や職員の勤務状況を把握している。さらに、会議等に参加し職員の日常の悩みや問題をすいあげ改善に努めている。また、就業規則に基づき労働条件を整えており、可能な限り職員の資格取得の配慮を行うと共に誰もがやりがいのある職場環境の整備に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員が、利用者への適切なケアが出来るように1か月間丁寧な指導に努めている。出来る限り、職員が研修に参加できるように努力し、研修が一部の職員に偏らないように配慮し、研修後は研修報告の場を設け講習を行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と介護支援専門員は会議や研修において同業者との交流が行われている。一般職員においては、近隣施設で行われた認知症研修会に参加して施設間の交流を図っている。また管理者間の交流を活かし一般職員レベルでの交流を図れるように現在検討している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談において、本人の出来る限りの情報を把握するように努めている。次に、本人の不安を取り除くためにも通所から初めるなど、家族と十分相談しながら本人に合わせた対応が出来るように努めている。さらに、本人や家族からの相談には相手の立場に立ち受け止め、良好な関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとっても入所は不安であるため、少しでも不安感や不信感を取り除き、信頼関係を築くために出来る限り家族から今迄の苦労や今後の希望なども伺っている。また、担当職員を覚えて頂いたり、施設の運営や年間行事なども説明し、安心して本人を預けていただけるように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談において、家族とケアマネジャーの間で本人や家族の思いと、今までの状況を確認し、必要なサービスとして何が出来るか協議して理解いただく様に努めている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員皆が、グループホームを施設でもあり、第二の我が家でもあると思い利用者も職員も同じ家族と意識を持って生活できるように努めている。また職員全体会議や研修において、利用者との関わり合いについて学ぶ機会を作る様に努力している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所される事で、利用者と家族が疎遠になったり、ゆだねばなしにならないように一番の支えが家族である事を理解して頂く。そのため、定期的に、本人の状況を把握したり、施設に来やすい雰囲気作りと家族も関わりやすい機会を作るように努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所される前の住んでいた場所や地域を訪れたり、利用者と共に馴染みのお店に行く機会を作っている。また、古くからの友人が来られるなど、気軽に立ち寄れる場所としての雰囲気作りに努めている	利用者の友人や知人が頻繁に事業所を訪問してくれている。日ごろから交流している隣接の高齢者福祉施設には利用者の知人も多い。また、利用者の住んでいた場所や地域に行ったり、馴染みの喫茶店などに行ったりしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で、利用者1人ひとりが孤立せず、安心して生活できるように全職員で取り組んでいる。両者の中で代表者を決めその方が中心で物事が進む様に働きかけていきたい。小さなトラブルでも職員が見逃さず、溝が埋まらないように努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、親しくしていた利用者とは会いに行くように心懸けている。また他の施設に移られた場合はアセスメント、ケアプランや支援状況等の引き継ぎを充分に行い、新しい場所でも少しでも本人が戸惑わないように配慮している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどう暮らしたいのか、何をしたいのかなど、本人の思いや希望を聞き取り家族からの情報から出来る限り把握するように努めている。また日々の生活の中で本人の表情や仕草から、何に対して興味を示し喜ばれているかを推測し本人にとって充実した生活を送れるように努めていくと共にいろいろな事をくみ取り情報を記録しここにあったケアを心にかけている。	利用者との会話の中から希望や意向を把握している。会話での把握が難しい場合は、表情やしぐさから把握するように努めている。個々の利用者の情報を集約するフェイスシートは、現在内容の充実を図っているところなので、その取り組みを期待したい。	利用者のフェイスシートについて内容の充実を図っているところなので、その取り組みを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が気になる行動を起こす時、必ず要因があると考え、些細な事でも家族や知人からそれにつながる情報はないか聞きとりを行っている。なお、触れて欲しくない過去もあるので十分プライバシーの配慮には気を使う		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族も知らない本人の能力が、日常生活の中で発揮される事もあるので様々な体験が出来る機会を作り、一つでも多く出来る事を見つけ出している。職員会議で、利用者の生活能力を取り上げ、職員同士で思った事や本人の可能性を話し合いより良い支援に繋げている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス利用開始時には、ご家族や社会福祉協議会等、本人をよく知る関係者からの情報を参考に暫定的に介護計画を作成している。その後、1か月程度の経過を観て、職員全員の意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、更に出来る限り本人の意見や要望を伺い本計画に反映している。なお、この計画はその都度ご家族に説明し、了承して頂いた上で捺印願っている	介護計画は3ヶ月の期間で見直し作成している。見直しの際は、ケアチェック表やモニタリング表でカンファレンスを行い、サービス担当者会議の要点として記録している。日々の記録も最低1日1回は計画内容に沿った記録を意識して行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は、食事、水分、排泄状況は勿論のこと、本人のその日のエピソード等を職員が記録しすべての職員が確認できるようにしている。また夜勤、日勤の引き継ぎにおいても前日までさかのぼって、本人の様子が分かるように説明し引き継ぎしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お出かけ行事や、誕生会等、家族も一緒に同席したい等の要望があれば、できる限りお応え出来るように対応している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の商店や理容店を利用したり図書館ボランティアの団体との連携により本の読み聞かせに来ていただいたり、隣接の施設の利用者さんと菜園を通して交流を行っている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の病院が少ないため殆どの利用者が地元の医療機関を利用しており施設にて通院支援を行っている。他の病院を受診する場合は、家族が対応する事となっているが必要に応じて職員が同行し詳しい説明する場合もある	ほとんどの利用者が協力医療機関を受診しており、事業所にて通院支援を行っている。受診記録はパソコン上で記録・管理しており、必要に応じて医療に関する内容をすぐに抽出することができる。	

沼田町認知症高齢者グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に、利用者の気を付けて生活している。看護職の配置は無いが、隣接している特養施設の看護職員と連携を密にしている。最近町内に訪問看護が配置されたので、今後活用を考えていきたい		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、家族、病院、なごみの三者で今後の対応の仕方について十分協議して、本人が一番良い形で退院につながる様に進めている。又入院時は、本人の生活支援の情報を病院に伝えると共に、職員が定期的に病院訪問し本人の様子や病院での対応を確認し家族へも状況を報告している		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では医療行為が発生しない範囲で可能な限りサービスを提供する方針としている。重度化や終末期の対応は、利用開始時に利用者や家族に方針を説明したり、運営推進会議で説明して頂き、その都度納得をして頂いているが同意書等は交わしていないため新たに作成したので今後再度家族に承諾して頂く様に努める	利用開始時に利用者や家族に方針を説明し納得してもらっているが、事業所で作成した重要事項の追加事項である「重度化した場合の対応」については、まだ家族への説明や書類の取り交わしは行われていない。	重要事項の追加事項である「重度化した場合の対応」について家族に説明し、書類を取り交わすよう期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、行政関係や消防署の協力を得て、救急者が到着する前の応急処置や準備すべき事について研修会を行っている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。より現実に近い訓練を想定し、消防署や隣接する介護施設や地域自治会とも打ち合わせを行い実施している。また、運営推進会議に合わせて訓練を行い、ご家族や行政、地域包括支援センターの職員にも見学頂き、乾燥や意見を頂いている	年2回、消防署の協力を得て主に夜間を想定した避難訓練が実施されており、避難の手順も整備されている。町内会に災害時の協力依頼をしたり、隣接する介護施設と災害時の連携を取っている。また、職員の救急救命訓練も定期的実施されている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼びかけやトイレ誘導の際には、本人や他の利用者へのプライバシーに配慮するよう心がけ、気になる事は職員会議で話あっている。個人記録は、鍵のかかる場所とパソコン内に保管、管理している。面会受付簿は単票保管とし、プライバシーを守っている	名前は「さん」付けを基本として、本人の希望でニックネームで呼ぶ時は家族に了解を得ている。職員間で排泄確認をする時は、プライバシーに配慮して大きな声で話をしないようにしている。個人記録は事務所やパソコンで適切に管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員1人1人が、利用者支援の為に日頃から密接な関係を持ち、意思表示がしやすい環境を作っている。色々な行事を行う場合も全て職員で決めたりせず、利用者からも意見や要望を言える機会を作っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方については、なるべく本人の要望を尊重しその人のペースに合わせて物事をすすめている。1人ひとりの趣味や、志向に合わせて対応を心かけているが、一日の大半は新聞を観たり、自室で寝るだけの利用者も多いので、体力維持やその人の能力を引き出すための工夫を職員で検討している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意思で決めており見守りや支援が必要な時のみ職員が手伝っている。日頃からお化粧やおしゃれを楽しみたい利用者には、特に行事に合わせて、職員がアドバイスしてお手伝いさせて頂き楽しんで頂いている		

沼田町認知症高齢者グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園から収穫した野菜の皮むきや食事の後かたづけ、等利用者に来る事をお手伝いして頂いたりしている。キッチンがせまいので、食事の支度もしづらいが利用者にも出来るように職員も工夫し今の環境の中でお手伝いして頂いている。味見や料理の仕方を聞くとお手伝いにもつながり楽しまれている。食事中は音楽を掛けながら職員と利用者が一緒に食事している。また一部の職員が同じ食事をし検査しており今後の参考にしている	献立は利用者の希望を聞きながら職員が交代で作成して、食事制限時や流動食なども隣接する高齢者福祉施設の管理栄養士にアドバイスを受けている。動物園や温泉への外出時に外食したり、外出行事がない月は各利用者の好みのお出前を取って食事を楽しんでいる。野菜を育てたり、発砲スチロールの箱で米を育て食事に取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が、利用者個人の水分量や食事量の記録をし管理し不足していればタイミングや介助方法の工夫をしながら補っている。また、利用者一人一人の好き嫌いな食べ物、飲み物も把握しその人に合わせて栄養摂取を心かけている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の習慣として、利用者には食後の歯磨きを施行している。自分で出来る方は見守りし、できない方はケアを行っている。利用者のケアを行う場合は相手の気持ちに配慮しながら、本人のケア能力が引き出せるように心掛けている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての利用者がトイレで排泄出来ているが、紙パンツやパット使用している方もいるがなるべく使用量が減る様に排泄パターンの把握をするため排泄表をチェックしさりげなく排泄誘導している	利用者の行動を見ながら声かけをしたり、排泄間隔を把握してトイレでの排泄を支援している。パットやオムツを使用している場合も、トイレ誘導により中には布下着に移行した利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	比較的、普段身体を動かさない利用者便秘気味な方が多いので、乳製品や野菜ジュース等で対応したり十分な水分補給と食物繊維の多い食事の提供を心かけている。また、リハビリ運動や風船バレー等で体を少しでも対応している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回と決めて午前、午後と入浴して頂き殆どの利用者が入浴している。入浴日以外でも希望時や必要時にシャワーや足浴等も対応している。また入浴が楽しめる様に仲の良い利用者同士で入浴したりしている。また、町内の温泉施設に行き温泉も楽しんで頂いている	入浴日は月、木を基本としているが、利用者の状態に応じて他の曜日にも入浴を行い、週2回以上は入浴できるように支援している。入浴を拒否する場合は声かけの順番を考慮したり、利用者同士と一緒に入浴できるように工夫している。状況に応じて足浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムを考え、夜は穏やかに休む事が出来るように配慮している。寝れない利用者がいれば寄り添い会話したり、落ち着いて休める環境作りを工夫して対応している。なるべく身体の負担にならない程度に日中は身体を動かし、体調を整えている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、処方箋のコピーを個人ごとにファイルしている。職員がさらに把握しやすい様に投薬箱に内服の内容と数を記載し間違いがない様対応。また、薬の処方や内容が変更になった時は状態の観察し記録し医療機関や近隣の看護師に相談しながら対応している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が得意分で力が発揮出来てもらえる様に菜園や稲作を手伝っていただいたり、お掃除や調理、洗濯物たたみ等のお手伝いを依頼し感謝の言葉を伝えるようにしている		

沼田町認知症高齢者グループホーム なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は散歩施行したり週に2回は近隣のお店で買い物したり近隣では買えない様な物は他の市町村のデパート等に行き買物を楽しむ様にしている。また年間の行事を利用者の希望も取り入れながら企画し、喫茶店や外食、動物園や花畑等を見に行っている。また昔の馴染みの土地に行きその当時の様子を話しながら懐かんで頂く様に対応	天候に応じて日常的に散歩に出かけ、アイスなどを食べて楽しむこともある。冬季も利用者の希望に応じて近隣を散歩したり、買い物などに出かけている。隣接する高齢者福祉施設や町民会館などで開催される催し物の見学に出かけている。自宅に山菜採りに出かける利用者もあり、収穫した山菜が食卓にあがることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がい金を持ちお金を出すことにより満足感と社会に繋がっている事を実感出来る場合があるので普段は事業所で管理しているが、外出時において支払の場面作りを出来る範囲で行っている。またおこずかいを渡し自由に買物する利用者のかたもいる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が手紙を書きたい場合は、気軽に出せるように支援している。施設の電話は子機を使用し居室でも会話できるように配慮している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者や職員の写真や季節の装飾などされている。フロアーには利用者の試作品が飾られており、家具調度品や熱帯魚の水槽で家庭的な雰囲気醸成している。2か所に大きな拭き上げもあり自然光を取り入れた開放的な造りであり、床暖房で自然なぬくもりを調整している	ベランダに面した居間は大きなガラス張りで温かな日差しが入り、室内からも四季を感じることができる造りになっている。食堂には利用者の作品の生け花やミニあんどん、職員手作りの装飾や利用者の表情豊かな行事の写真などが飾られており温かさが感じられる。温湿度計を設置して、加湿器などで湿度管理も適切に行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物構造上、利用者の居場所がワンフロアと居室のみの為、居室以外は絶えず大勢の中にいる雰囲気である。ソファーや食卓テーブルの配置により多少は区切られているが、一人になる空間が無いので一人でそっとして欲しい利用者には職員が配慮し他の利用者が側に行かないようにしている。また、安全で落ち着いて過ごせる空間作りは常に職員間で検討している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ちつき過ごせる空間作りに、馴染みのタンスや仏壇等の家具を使用して頂いている。壁にも自分で自由に写真や表彰状等飾る事ができ安心して過ごせる空間になっている	各居室には洋服や小物を収納できる押し入れが設置されている。塗り絵や好きな歌手の写真を壁に貼ったり、家族の写真を飾るなど、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫している。洗面器や濡れタオルを利用して湿度調節にも十分配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は出来るだけ利用者がくつろげる環境を心かけているが、体力の低下など利用者の状態の変化に合わせて家具の安全な配置や、安心して入浴できるように介護器具の設置などの工夫をその都度職員で話し合いながら決めている		

目標達成計画

事業所名 沼田町グループホームなごみ

作成日：平成 23年 4月 5日

市町村受理日：平成 23年 4月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営会議開催が以前より段階的に増やしているが年4回の開催にとどまっております。会議録についても家族に送付されていない。	年6回の運営会議開催及び会議録の家族への送付	年6回に向けて計画し、会議を欠席した家族宛てに会議録を送付する。	1年
2	10	家族訪問時には現在の様子をお話して家族が意見を言いやすい雰囲気作りをし金銭出納帳のコピーは渡していたがレシートや領収書の送付は信用しているからいいとの意見も多くしていない。	家族に対する毎月の金銭出納報告の実施	4月に、3月分の出納帳のコピー及び領収書等を家族宛てに送付し、それ以降毎月送付する。	4月
3	23	個々の利用者の情報を集約するフェイスシートは現在内容の充実を図っている所である。	フェイスシートの内容充実化への取り組み	今後、利用者一人一人見直して、フェイスシートを作成していく。	1年
4	33	利用開始時に家族に方針を納得してもらっているが、事業所で作成した重要事項の追加事項である重度化した場合についての書類はまだ家族への説明や書類の取り交わしは行われていない。	重要事項説明書の追加である重度化した場合の対応について家族に説明し書類を取り交わす。	各家族に重度化した場合の対応について説明し、書類を交わしていく。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。